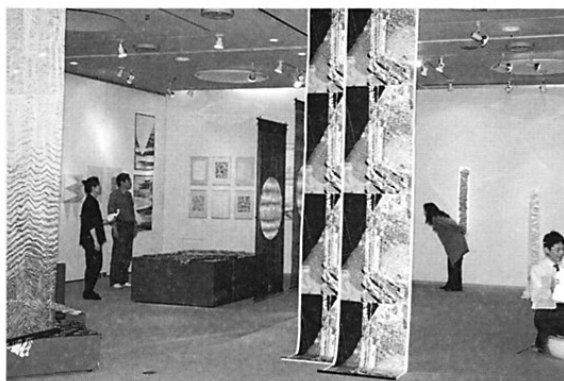


テキスタイルデザイン ナウⅢ
(伊丹市立工芸センター)

日本列島が、台風の如き強風と雨にみまわれ、梅雨のような蒸し暑い一日だった。

そんな4月14日(火)に伊丹工芸センターでのT.D.A主催“テキスタイルデザイン ナウⅢ”の搬入は午後1時に開始された。

まず、梱包を解く作業から始められる。遠方から発送された作品。事前に伊丹工芸センターに送り届けられた作品。梱包を解くに従い生まれ出てくるかの様な作品に神経を使う作業だった。仕事柄種々な素材と出会っているが、素材としての「繊維」の繊細さ。「織」という字のもつ細い・ちいさいの意に留まらずカボソイ・シナヤカ・タオヤカなどの意を指先や目から実感させられた。梱包を解く作業と平行して会場の設営に取り掛かる。願ってもないほどの作品の多さに、既存の壁面では到底足りず、可動式の壁面を数枚だすことになる。が、会場の雰囲気は損なわず、且つ作品をすべて展示するための少しの時間と苦心がいった。



チェックする会員たち

さて、作品の展示に取り掛かる。32名と1社の出品者の70点を有に越える作品数。それぞれが、個性を持ち、主張する作品達を出来る限りの良い条件で展示することは、気骨の折れることだった。当日会場にきてくださった15名の方々は、ご自分の作品の展示を後回しにして、工芸センターのスタッフとともに展示作業にご協力いただいた。

展示が終盤にさしかかる頃、照明を調整する。作品に息吹きを与え存在感を醸し出すこの作業で作品達は1点1点が会場に根付き、話をし始めた様に思われた。時刻はもう5時をまわっていた。

それぞれの作品にキャプションが貼り付けられ展示会場全体を見渡す作業で搬入は終了した。制限時間の午後6時を少々まわっていたが工芸センターを出、帰路に着いた。

いつの場合でもグループ展というのは、搬入・展示作業が煩雑で神経を使う。各自の作品ではなく、他人の作品を扱うというのはなおさらである。搬入当日来てくださった方々は大変だったと思う。特に、搬入のために埼玉からわざわざ来てくださった浪江さんには、頭がさがる思いがした。

今回の“テキスタイルデザイン ナウⅢ”はペーパーデザイン/タビストリー/スクリーン/パネル/ドレス/ストール/生地/立体/ファイバーワークなど数多くの分野に分かれ、各々が確固たる主張を持っている。テキスタイルデザインという分野ながら、その内容は、立体・平面の枠に留まらず、素材・技術(技)・創造力の織りなす作品は、多様性に富み、境界領域の拡大を計っているように思われた。

(レポート 金田 恵美子)

出 展 者 名

石崎 朝子/石原 薫/梅田 幸男/小野山 和代/金田 恵美子
川本 敦久/北川 陽子/木下 幸子/熊谷 實/竹垣 恵子
新本 浩二/橋 喬子/近沢 晴雄/浪江 陽子/仁尾 敬二
野々口 悟/はまし まえつこ/平岡 清/平岡 美子/藤村 郁子
本田 昌史/真木 友子/村雲 あつ子/山口 道夫/山縣 雅子
吉田 旺/山本 竜一/山岸 征史/わたなべ ひろこ(正会員)
足立 豊樹/山田 紫帆里/丁 貴正(準会員)



記念撮影 ハイポーズ//